

114  
A 4413

第九号ノ音信添タル新聞

大正十一年四月  
隈橋邸寄贈

峯源郎譯

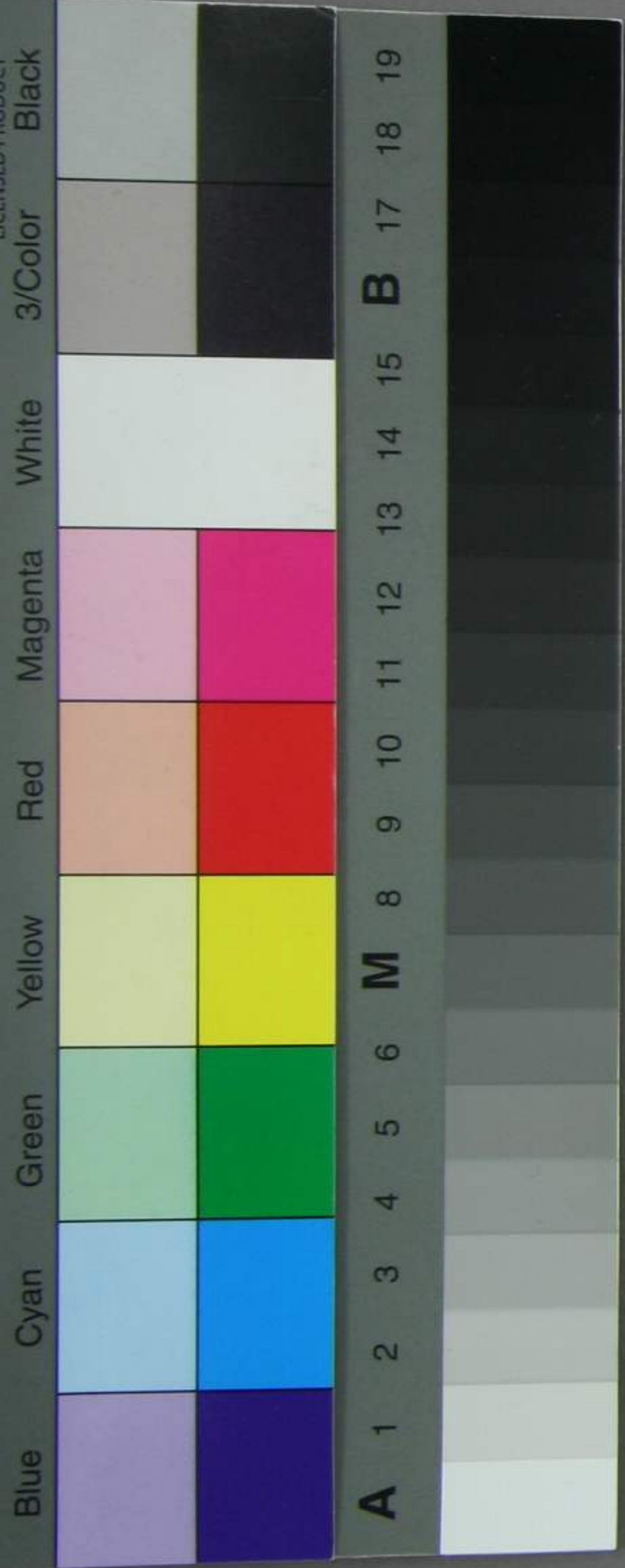


前週

論ス

イ、エツテ、ハウス

千八百八十一年一月十二日刊行「ボストン、デイリー、アドバタイザー」新聞記者ニ呈シテ東方諸國ニ於ケル米國ノ裁判所ヲ  
 於テ治外法權裁判所ノ一件ニ付テ議論ヲ生シタ  
 ル議官ノ舉動ヲ見ルキハ右守裁判所改革ノ大機會ア  
 ハ明々了々容易ニ發見スルヲ得ヘキナリ  
 此ノ議論ハ元來東方諸國ニ於ケル米國ノ宰舎入費ノ為  
 ニ或ル金額ヲ供給スルノ議論ニ由テ其端緒ヲ為セリ然  
 レモ是レ自カラ一箇ノ問題トナルヘキ重要ノ事件ナリ  
 抑モ此裁判所ノ一ニ付テハ其所在ノ土地ニ由テ其事情  
 甚々差違アリテ一様トラサレタリ然レモ日本ニ於ケル  
 此ノ裁判所ノ如キ全ク不用ノモノハ悉皆猶預ナク廢止



スルモ差支ナカレヘシ日本帝國ノ首府ニ於ケル合衆國  
ノ公使館ニハ儼然タル裁判廳并ニ牢舎アレハ其設立以  
來全ク無用ノモノニ外ナラサルナリ若シ人アリテ其  
裁判廳并ニ牢舎ヲ巡覽スルモ敢テ真ノ訟庭牢舎トハ思  
ハレサル程ニテ左ナカラ公使ノ私宅ノ一部ナルカ如ク  
全ク有名無実ニ過キサルナリ蓋シ此ノ公使館ノ牢舎ニ  
於テハ一人モ糾問ヲ受ケシモノモナク又々入牢ヲ申シ  
付ラレタルモノモナカリシ其裁判廳并ニ牢舎ヲ維持ス  
ル為ニ使用セル金額ハ徒ニ公使ノ愉快ヲ増益スル過  
サルナリ我カ公使ノ月給カ其通例相当ノ需要ヲ濟スル  
為ニ不足ナルカ故ニ當裁判廳ノ費額ヲ以テ其不足ヲ給  
充シ以テ有餘不足ヲ平均スルノトアルヘシ是レ蓋シ事  
情然ルヘキカ如シ然レモ此ノ場合ニ於テハ公使ニハ手

當金ヲ與ヘテ裁判廳入費ヲ差操ルカ如キ不都合ノ費用  
ハ廢止セサルヘカヲサルナリ且ツ此他又々裁判廳等ヲ  
永續スルニ於テハ良心上ノ故障ヲ来スル鮮少ナラサル  
ナリ抑モ余輩此公使館ノ附属物ニ其費用ノ金額ヲ供給  
スルモノハ此裁判廳カ米國人民ノ安寧便利ヲ謀ル<sup>ト</sup>ア  
ルヲ信シテナリ然レモ今ヤ決シテ其裁判廳ハ裁判廳<sup>ト</sup>メ  
テ徒ニ日本政府ノ憤懣ノ情ヲ永久ニ遺スモノヨリ外ナ  
ラサルナリ蓋シ日本政府ハ其土地ニ於テ外國ノ裁判所  
アルヲ嫌惡スレハナリ  
日本ノ諸港ニ於ケル領事館裁判廳并ニ牢舎ニ付テ各地  
其程度ニハ較少差アレモ場合ニ至テハ同一ナリ此等裁  
判廳ニ在テハ糾問アリ繼テ入牢アリ然レモ此ノ糾問入

牢等ノ為ニ定額金残ラス費用ニ盡サハ是レ注意ノ錯誤  
スルヲ免カレサルナリ然レモ國務省ニ於テハ前段ノ情  
實ヲ察知シ黙シテ其レ等ノ事ヲ許可セルカ故ニ恣ニ定  
額ヲ浪費セシモトハ云フ可カラサルナリ是レ蓋シ諸  
官吏ノ給金不足セルカ故ニ右不正ノ差採ヲ以テ其不足  
ヲ補填セサルヲ得サルヘカテサルノ理ナリ然レモ是レ  
勿論全ク錯誤ナルカ故ニ其補填タルヤ正路ヲ得サレハ  
給金ヲ増加セサルヘカテサルナリ然レモ右等ノ如ク不  
都合ニ増加スヘカテサルナリ若シ又モ日本ニ於ケル總  
テノ治外法権裁判所ヲ速ニ一掃セハ真ニ無上ノ美事ナ  
ルヘシ夫レ治外法権裁判所ノ存スル所以ノモノハ其存  
留ヲ好ムノ人民多キカ故ナリ然レモ今ヤ全ク其実用ナ  
キヲ恰モ日本ニ於テ米國カ驛亭、鍊道、燈臺等ノ事ヲ為ス

ト一般ナリ彼ニ日本執政者ノ輕侮ヲ招クノミ日本ニ於  
テハ其裁判権ヲ疑惑スルニ及ハサルコトハ猶ホ自餘諸役  
所ノ事務ヲ疑惑スルニ及ハサル如ク一般ナリ日本カ其  
獨立ニ於テ施行スル所ノモノハ其處置天下ノ輿論皆是  
レヲ是認セリ而ルニ獨リ裁判所ノモ此限ニ非ラストム  
ルハ美事ニ非サルナリ故ニ若シ當今ノ議官ニ於テ理財  
上ノ改革ヲ為サント欲スルノ念アラハ日本帝國ニ於ケ  
ル我々治外法権裁判廳ヲ速ニ廢止スルヨリ善ナルハナ  
カルヘシ

